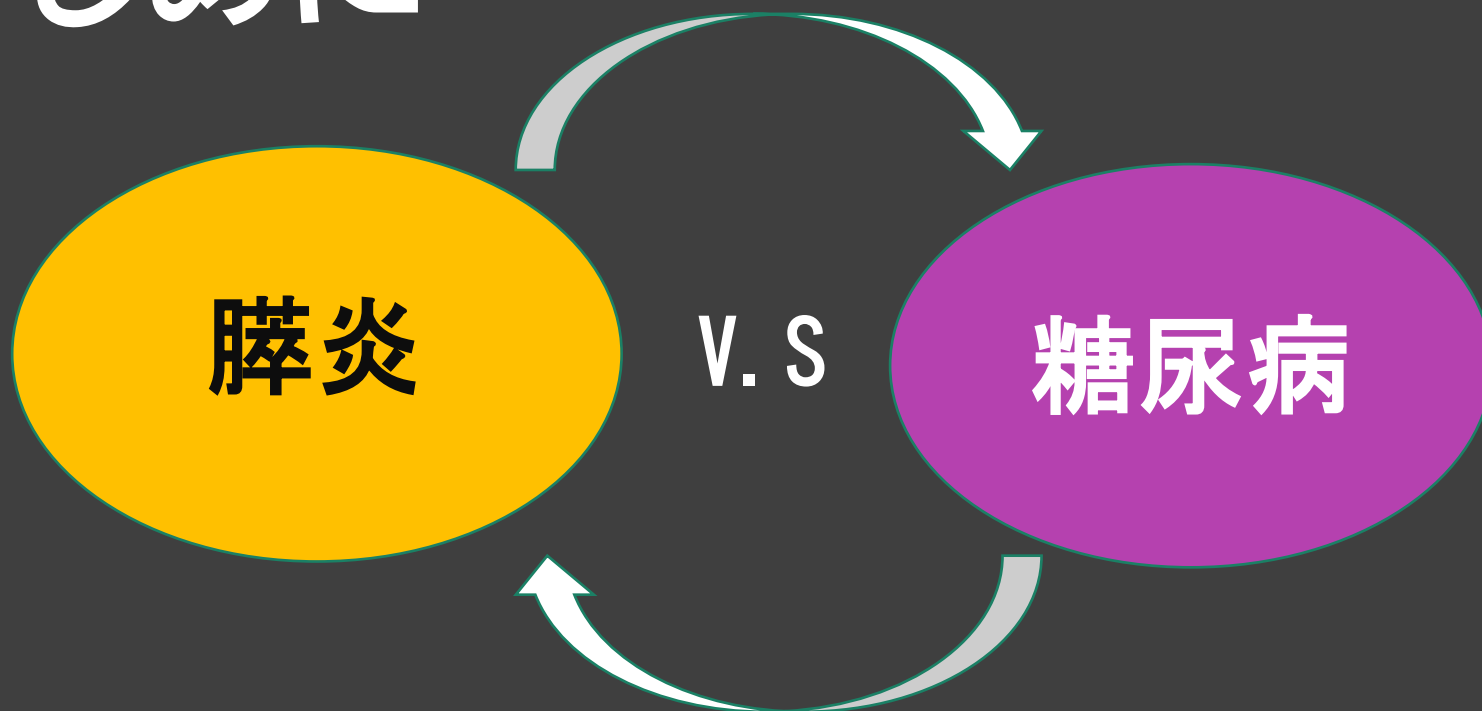


著しい脂質代謝異常に
急性膵炎を併発した
糖尿病の犬の一例

マリアペットクリニック
末次文雄

はじめに



脂質代謝異常

症例

トイプードル

7歳 避妊雌



過去に**異物摂取**

盗食の癖あり

主訴

前日からの**急性嘔吐**と**血便**

3カ月前から**多飲多尿**

沈うつ

CBC

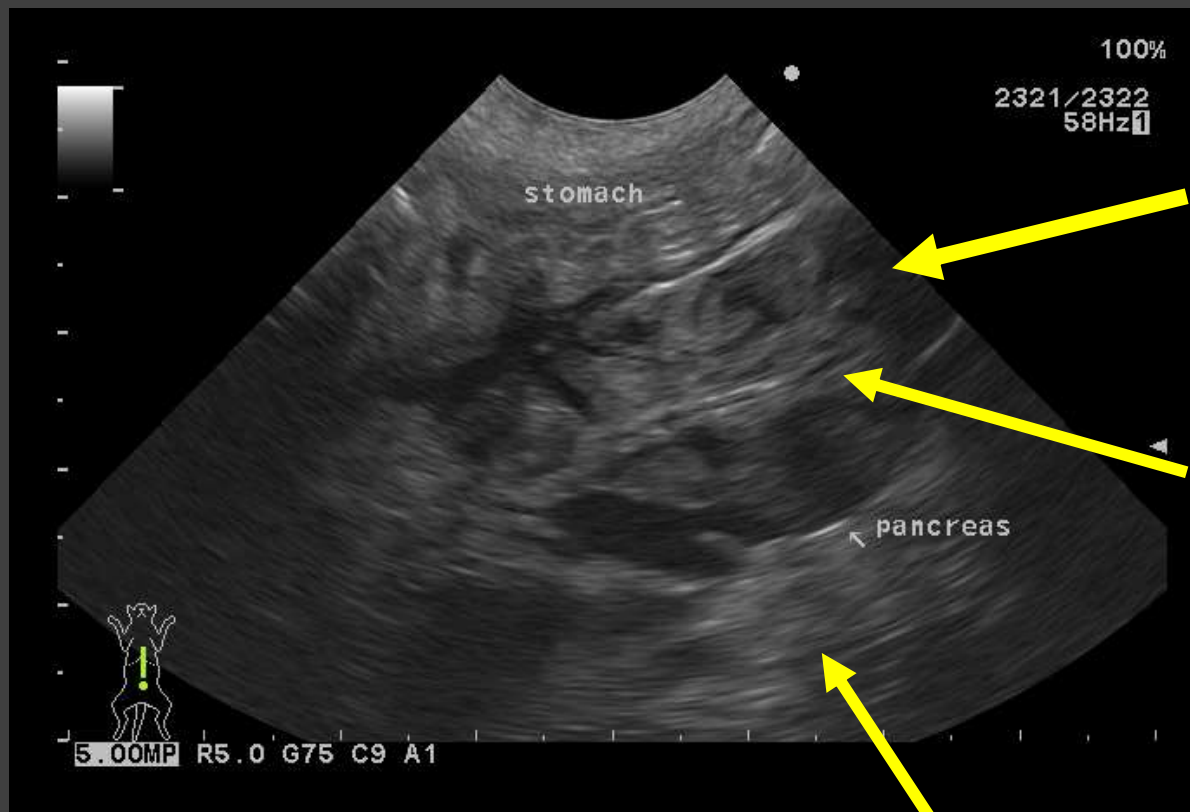
RBC($\times 10^2/\mu\text{L}$)	203	WBC($/\mu\text{L}$)	20300
PCV(%)	32	Band-N	1624
Hb(g/dL)	8.6	Seg-N	13804
MCV(fL)	87.0	Lym	3045
MCHC(%)	26.8	Mon	1827
TP(g/dL)	9.0	Bas	0
Plate($\times 10^3/\mu\text{L}$)	46.1		

TP	9.0 g/dL	BUN	8.5 mg/dL
Alb	4.3 g/dL	Cre	0.5 mg/dL
ALT	85 U/L	P	2.5 mg/dL
AST	59U/L	Ca	9.3 mg/dL
ALP	311U/L	Na	131 mmol/L
TBil	0.3 mg/dL	K	4.8 mmol/L
Tcho	450< mg/dL	Cl	95 mmol/L
TG	1 381 mg/dL	CRP	21.0< mg/dL
Glu	504 mg/dL		

尿検査

USG	over
GLU	(4+)
PRO	3+
PH	6.5
BLD	(-)
KET	(+)
Cell	(-)
CRY	(-)

追加検査



膵臓の腫大

膵管の拡張

エコー源性亢進

追加検査(第1病日)

犬腭特異的リパーゼ(cPL)

1526 $\mu\text{g}/\text{L}$ (参考値 <200)

追加検査

初診時

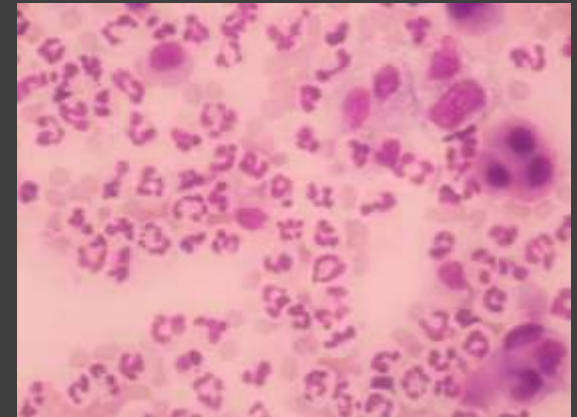
糖化アルブミン(GA)

48 %

(参考値 8.8~14.5)

第4病日

頻呼吸



胸水リパーゼ **861** > 血漿リパーゼ **293** (IU/L)

診断

- ・急性膵炎
- ・糖尿病性
ケトアシドーシス
- ・脂質代謝異常
- ・急性肺障害

治療

初期

高血糖

レギュラー
インスリン

急性膵炎

輸血
プレドニゾロン

治療

膵炎終息後

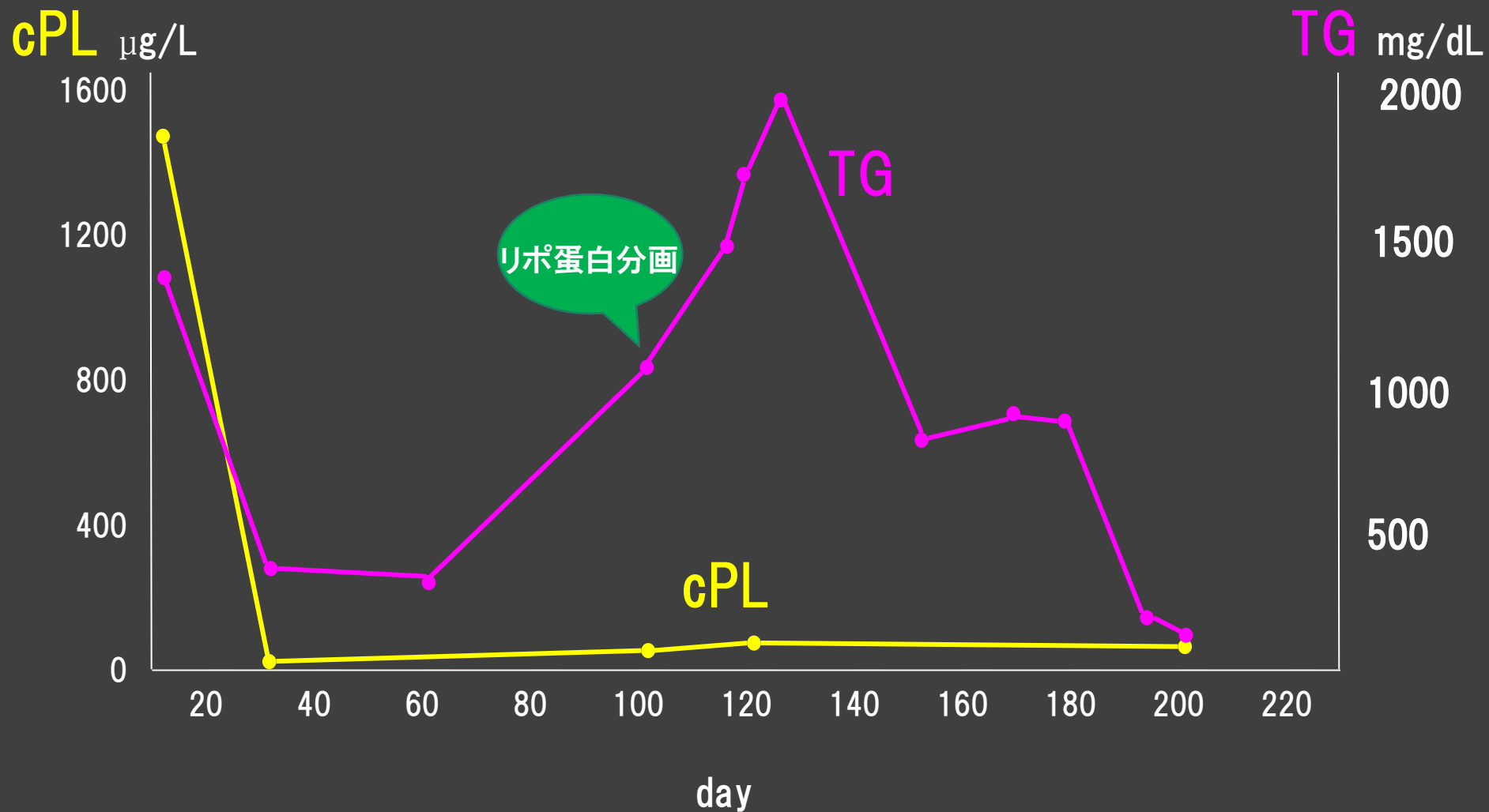
糖尿病

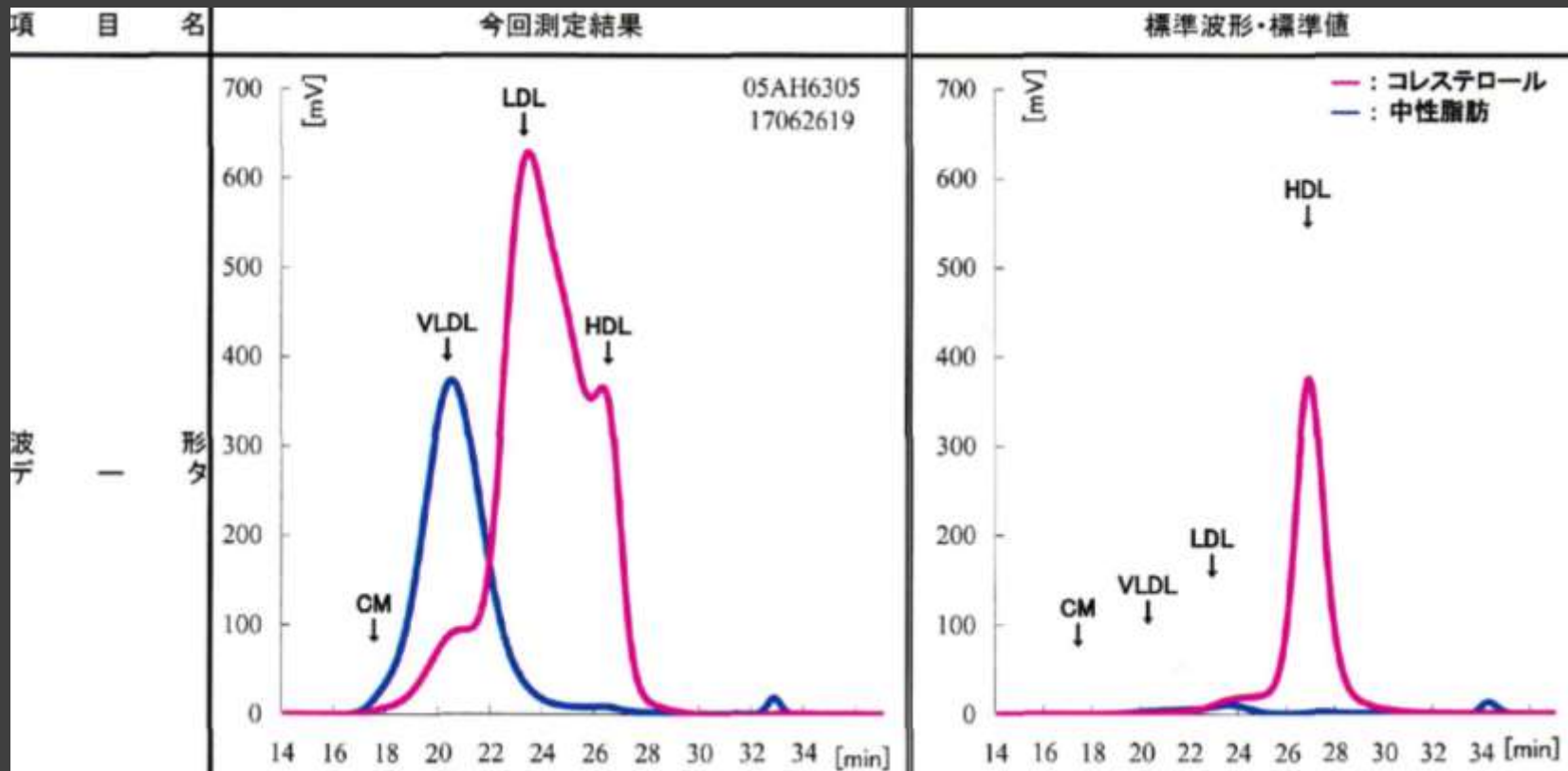
インスリングルルギン/
インスリンデテミル

脂質代謝異常

フィブラート系

cPL低下後もTGは高値を示す





VLDL 中性脂肪 **871.73** mg/dL (0~67)

LDL コレステロール **455.77** mg/dL (0~57)

糖尿病による

脂質代謝異常

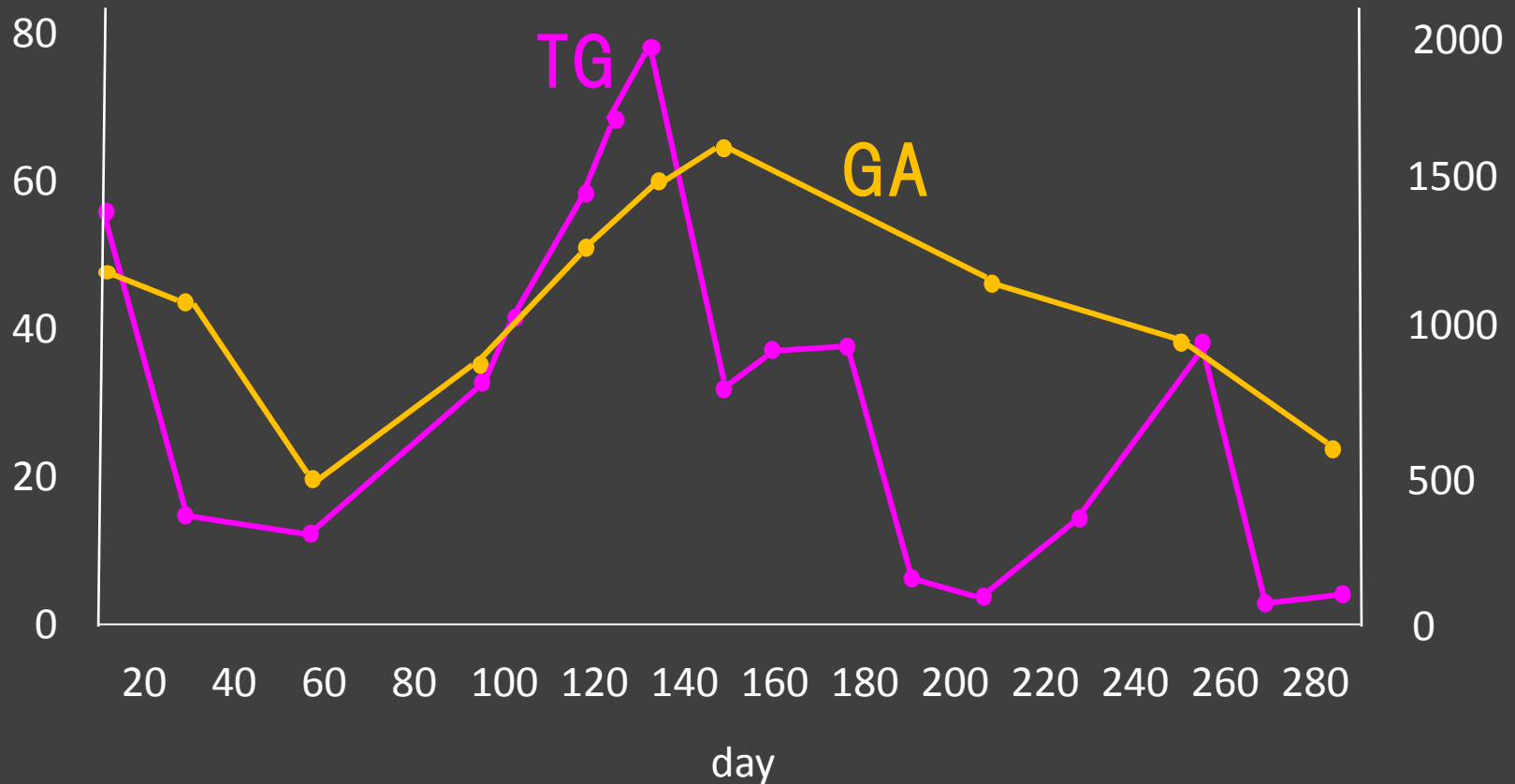
糖化アルブミン (GA) とTGに相関がみられた

GA

%

TG

mg/dL



グラルギン3~5U

デテミル1~2U

フェノフィブラート

クリノフブラート

ベザフィブラート

考察

どちらが先



脂質代謝異常

糖尿病

脂質代謝異常

?

?

急性膵炎

考察

急性膵炎発症リスク

脂質代謝異常

教科書的

考察

M.シュナウザー



TG 862 mg/dL<

膵炎発症リスク **4.5**倍

(Xenoulis P.G. et al. J vet Intern Med.2006)

考察

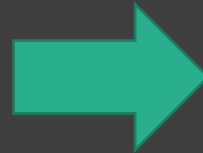
一方…

肥満犬35頭



食後TG

442 mg/dL <



PLI

400 μ g/dL <

4年間、**膵炎症状なし**

(Verkest, K.R. et al . J Vet Intern Med 2012)

考察

ヒトの食べ残し

ゴミあさり

膵炎発症リスク **13.2**倍

(Lem, K.Y. et.al J Am Vet Med Assoc 2008)

考察

高脂肪食



膵臓内の**脂質過酸化反応** ↑

酸化ストレス ↑



膵臓に組織障害

(Yan, M.X. et.al Biochem Biophys Res Commun 2006)

考察

糖尿病 → 急性膵炎

↑
高TG血症
+
暴食



結論

脂質代謝異常をともなう糖尿病は、
暴食によって急性膵炎を発症する
ことがある。

今回の症例発表を行うにあたり 御指導いただいた、スペクトラム ラボ ジャパン株式会社の
荒井延明 先生に感謝いたします。

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある
企業などはありません。